

角田市議会一般会議報告書

平成28年6月30日

角田市議会

議長 柄 目 孝 治 殿

議会運営委員会

委員長 馬 場 道 晴

開催日時	平成28年 3月 29日(火) 14時30分～ 17時08分
開催場所	角田市役所301会議室
会議の議題	(1) 角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略における地域振興について (2) 道の駅をはじめとする賑わいの交流拠点施設整備実施計画における地域振興について (次 第：別紙1のとおり)
議会に対応した委員会名	議会運営委員会、各正副常任委員長(今回のテーマにおいては、各常任委員会にも関わることから正副委員長も出席依頼した)
出席委員名	馬場道晴議会運営委員会委員長 八島利美議会運営委員会副委員長 小湊 毅議会運営委員会委員・総務財政常任委員会委員長 八島定雄議会運営委員会委員 谷津睦夫議会運営委員会委員・産業建設常任委員会委員長 相澤邦戸議会運営委員会委員・教育厚生常任委員会委員長 堀田孝一総務財政常任委員会副委員長 (出席者：別紙2のとおり)
参加関係団体等名	各地区振興協議会 (出席者：別紙3のとおり)
参加団体等の人数	18人
傍聴人数	18人

発 言 者 名	主 な 発 言 要 旨 等
<p>泉政策企画課 長</p>	<p>冒頭、柄目議長並びに担当委員会となる議会運営委員会馬場委員長からの挨拶の後、議事次第に従って協議。</p> <p>■議題の趣旨説明等</p> <p>(1) 「角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における地域振興について (説明・質疑)</p> <p>【角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要説明】</p> <p>角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定は、昨年5月に市民18人で構成する角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会を設置し、会議を5回ほど開催した。</p> <p>また、昨年10月から11月にかけて、市内9地区で開催したまちづくり懇談会において市民の方へ説明し、さらに、本年1月下旬に開催した角田市議会全員協議会においては、数十ページの冊子で説明した。</p> <p>最終的には、本年1月28日付けで角田市総合戦略を策定した。</p> <p>●第1章 全般的事項</p> <p>社人研（国立社会保障・人口問題研究所の略）の推計では、角田市の人口が、25年先の2040年には2万1千人程度、45年先の2060年には1万4,458人程度まで減少するとの見込みである。</p> <p>一昨年11月に国で成立した「まち・ひと・しごと創生法」において、全国1,741の自治体と都道府県において人口減少を食い止めるための総合戦略（人口ビジョン・総合戦略）を策定しなさいという責務を課された法律ができたというところである。</p> <p>●第2章 人口ビジョン</p> <p>◎第1節 人口の現状分析</p> <p>角田町1町6ヵ村の昭和の市町村合併時代は3万7千人台であり、その頃がピークであった。その後、市制を敷いて、人口が徐々に減少したが、昭和40年代にアルプス電気(株)や(株)ケーヒン、(株)大安工業所などの企業を誘致し、人口は盛り返した。しかし、最近では平成2年の3万5,431人をピークに減少の一途をたどっている。</p>

角田市の人口は、昨年10月の国勢調査で3万193人であった。その数字は現在の住民基本台帳人口とほぼ同じである。人口減少の主な要因は、まず、出生者数の減少があるが、角田市の合計特殊出生率は、ほぼ国の中間値であり、宮城県の平均値の1.34になっている。一方、社会増減については、平成15年頃から転出が多くなり、転出超過になっている。

◎第2節 人口の将来展望

国と同じような考え方で3つの基本的な視点を掲げている。

- ①雇用の場の確保による人口流出の抑制及び移住・定住の推進
- ②若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現
- ③地域資源を活かした地域課題の解決と地域活性化

角田市の人口は、平成22年が約3万1千人であるが、社人研の推計に準拠した場合、平成72年には1万4,400人台まで減る見込みである。

一方、自然増減と社会増減が国の見込みのように回復基調になった場合は、平成72年には1万9,912人と見込まれるが、政策誘導し、平成72年では、きりの良い2万人を維持する考えである。

●第3章 総合戦略

◎第1節 基本的な考え方

国・県の考えを踏襲し、角田市第5次長期総合計画に内包した形で、この角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略を作成してきた。

国では、ただ計画を作るだけでなく、先を見通した数値目標を設定して、着実に政策を進めるため、KPIという重要業績評価指標を設け、改善の目標の数値を設定している。これは、役所内部だけで検証するのではなく、角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会を年1回開催し、その中で進捗管理を行うほか、地域経済分析システム（リーサス）を活用し、今後の政策へ活かしていくことになる。

◎第2節 今後の施策の方向

大きく4つの基本目標を掲げているが、どれも国・県・他の市町村とも同じようなスキームになっている。

(小さな項目が48項目あるので、特化したもののみ説明)

<p>武智小田地区 振興協議会会 長</p>	<p>《基本目標①内発的産業の振興による安定した雇用の創出》 ・技術課題の解決などに向けたマッチング機会の創出 昨年12月にJAXA角田宇宙センターと連携協力協定を締結したが、JAXAが持っている宇宙関係の様々なノウハウと、角田市の自動車関連・電子部品関係の誘致企業とが上手く連携できる仕組みを作るものである。</p> <p>《基本目標②地域資源を活かした移住・定住の推進》 ・「地域おこし協力隊員」を活用した地域の活性化 平成28年度当初予算で約1千万円を計上し、西根地区に3人を都市圏から公募をかけ、角田市に住んでもらい、様々な地域振興に寄与してもらうものである。 ・阿武隈川河川空間資源を活用した賑わいの交流拠点の強化 河川空間は、15.5haに様々な運動機能施設のある角田中央公園、グライダーの滑空場、菜の花畑、両サイドにはゴルフ場等の資源があり、そして、その中核的な位置付けとして道の駅などの地域資源の連携活用、交流人口の拡大をすることで、第5次長期総合計画策定時には交流人口66万人ほどであったものを、交流人口100万人を目指すとしている。</p> <p>《基本目標③若い世代が子どもを産み育てやすい環境の整備》 ・若い世代の結婚支援 行政でも結婚活動、婚活支援を行うため、年2回くらい、民間にも協力をもらい活動をしている。 ・子育てしやすい環境の整備 角田保育所の老朽化に伴い、新保育所の平成30年度供用開始に向け計画している。</p> <p>《基本目標④安全・安心で住み続けたいくなる「まちづくり」》 ・協働によるまちづくり 行政運営上欠かせない地域課題解決に向けての大事な視点である。</p> <p>【各地区振興協議会からの質疑・確認】 角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の説明があったが、今までも色々な計画の下、進んできたと思う。今までの計画が実行されていれば、たぶん、このような状況にはならなかったのではないかと思う。この戦略を進めれば、素晴らしい成果が出ると思うが、実施するためにはよほどの力を注がなくてはならない。KPIで数値管理をしていくとあるが、ど</p>
--------------------------------	---

<p>柄目議長</p>	<p>のようにして実施していくのか。</p> <p>また、市長が議題として議会に上程することは理解できるが、この場に出た意見を議会としてどのように反映していくのか。</p> <p>政策に反映する方法は、様々あると思う。例えば皆が一番関心を持っている一般質問は、市長と対等に様々な政策のやり取りをする場面である。市民から得た情報を自分の活動の糧として行う一般質問や質疑は、議員が市政を質していく方法である。</p> <p>また、議会には会派があるが、会派が政策として作り上げ、市長に議会の場以外の活動で会派要望として出している場合もあり、今議会でも、ある会派では、市長へ直接的な要望を出した。</p>
<p>湯村横倉地区 振興協議会会 長</p>	<p>地域資源を活かした観光振興と交流人口の拡大の関連だが、角田市は色んな行事イベントがある。阿武隈リバーサイドマラソン、ずんだまつりなど、私はその都度携わる機会があり、いつも大変だと思うのが駐車場の問題である。その駐車場の問題については、市役所若しくは議会も含め検討をしていると思うが、交流人口を拡大させる上で、イベントが増える可能性もある。その時の駐車場対策としては、どのような考えを持っているのかお聞きしたい。</p>
<p>泉政策企画課 長</p>	<p>中央公園には、アスファルト舗装でラインを引いてある部分で駐車スペースが400～500台あるが、事前に大きな大会等で来場者が多くなる等、事前に分かっている場合は、多目的広場に白線を引き対応している。そこまで使えば約2,000台分が収容可能になる。</p> <p>不確定なイベントの場合には、確かに駐車場が不足するが、できるだけ来場者を見込みながら対応していきたい。</p>
<p>湯村横倉地区 振興協議会会 長</p>	<p>角田市内で行われるイベント全てに言えることであるが、各イベントで来場者用の駐車場が指定されており、イベント会場に近い駐車場が満杯時は、他県ナンバーの車の方に第2、第3の駐車場へ誘導するが、その方が案内図を見ても、なかなか場所が分からない。</p> <p>地元の方や担当役員が近くの駐車場に停めているようなので、そういう方を遠くの駐車場に停めシャトルバス等を利用してもらい、他県から来た方を優先的に近くの駐車場を利用する方法を検討してほしい。</p>

泉政策企画課長	<p>市民センター周辺も含め、駐車場の対応については、イベント担当課と一緒に検討したい。</p>
佐藤北郷地区振興協議会会長	<p>移住・定住の推進に空き家対策という項目があるが、100軒程度は空き家があると聞いた記憶がある。角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の新規事業として空き家利用による移住・定住の推進が掲げているが、この内容等について、簡単に説明いただきたい。</p>
泉政策企画課長	<p>平成25年に区長にお願いして、市内の空き家と空き地状況を、外部から見ていただいた。その際に空き家が111軒、うち、政策企画課所管のAクラス（状態の良いもの）が30軒あり、そのAクラスの空き家を活用していきたい。</p> <p>昨年末に、多少使える空き家も含めた所有者に対し、「今後、どのようにしていくのか」、「ただ所有していくか」、「売りたいか」、「貸したいか」とのアンケートを取り、その結果、「売りたい」、「貸したい」という方が30人であった。今後、そのような人とコンタクトをとって、市の空き家バンクへの登録を検討している。また、所有者の意思確認をした上で建物の内部を確認し、進めていきたい。</p> <p>また、定住促進、角田・いらっしやいプランの第4期目が4月から始まることから、そのいらっしやいプランを活用し、市内の有効空き家に転入した場合は、基本額の新規転入20万円に10万円を上乗せした30万円を支給できるというプランニングにしている。</p>
佐藤北郷地区振興協議会会長	<p>秋田県か山形県か忘れたが、空き家に定住した場合、例えば10年住めばあげる等、そのような恩恵があるプランはどうか。角田市の人口を増やすため、そのような検討してみたいかがか。</p>
泉政策企画課長	<p>空き家を10年、20年過ごした後にお上げするには、所有権を移転して良い方、ダメな方等、様々おり、また、その間、同じ所有者であり続けられるかどうか分からないため難しいところである。</p> <p>七ヶ宿町では、平成27年度に制度設計をして、立派な平屋を町で作り、一定程度住み続ければ、無償で譲渡するプランがある。過疎地域で良く使う手法であるが、空き家に対しては、別なアプローチの仕方の方が良いと思われる。</p> <p>ただし、有効空き家をそのままにしておくのではなく、活用する必要があるのでは、なんらかの手立ては講じていきたい。</p>

佐藤西根地区 振興協議会会 長	<p>角田市の人口は今年中に3万人をきるという状況である。それにしては、この総合戦略は物足りない。もう少し危機感があっても良いのではないか。</p> <p>いらっしやいプランも結構だが、もう少しドラスティックな考えで、ポジティブな戦略を作らなければ、更に人口が減ってしまう。全員で危機感を持たなければならない。</p> <p>私の持論で前から訴え続けているが、市民の目線は、阿武隈急行より東北本線である。大河原駅、船岡駅に近いところを開発しないと人口は増えない。西根13区の近いところから大河原駅まで2kmもない。あそこを開発すると、全て、大河原町に経済圏を持っていかれると言う職員や議員等がいるが、人口を増やす手立てはそれしかない。もっと、真剣に危機感を持って手を打たなければ、絵に描いた餅で終わり、更にスピードを増しながら人口が減っていく。</p> <p>角田市にいくら企業を誘致しても、角田市に住む人はいるのか。ほとんど、市外在住者だ。警察官は、角田市に転勤したらここに住むが、学校の先生方は角田市に転勤になったとしても、角田市に住まない。それで、地に足のついた教育ができるのか。もっと危機感を持って、もっと泥臭い戦略を作って欲しい。</p>
泉政策企画課 長	<p>まちづくり懇談会の際にも同じ内容の意見があった。現在、日本の人口、日本の市町村の896の自治体が消滅可能性都市であり、角田市もリスト入りをしてしまった。全国の自治体は、横浜市の370万人から、東京都の一番南に位置する約180人の青ヶ島村があり、それぞれ自治体経営をしている。</p> <p>今回、国でまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、各縣市町村においても策定しなさいとなった。</p> <p>既に平成15年頃には、日本は人口減少社会に入ると分かっていた。次世代育成支援推進法で、その際の日本の合計特殊出生率が1.26まで下がるという結果が出され、急遽、国で少子化対策を行ってきた。</p> <p>そして、増田レポートが一昨年5月に世の中に出て、総務省でも取り急ぎ、色んな施策を段取りしてきたが、一つ言えるのは、このまま手を打たなければ、ますます人口が減り、外部に人が流出することから、様々な施策を講じなければならないことだ。</p> <p>ドラスティックな施策は確かに財源も伴う。今回、西根地区で、3人の地域おこし協力隊員の募集をかけた。島根県の中山間地で、そこのセンターに勤めておる藤山 浩さんという方がいて、「人口1%戦略」ということで、700人の村でも</p>

	<p>若夫婦1カップル、30代で子ども連れのファミリー、なぜか65歳以上の老夫婦、7人の方が移住すれば、なんとか700人くらいの集落も維持できると。どこまで政策科学的に正しいか私も多少疑心暗鬼だが、そういった考えも出てきている。</p> <p>今回、5年間の計画である。本市においては、第6次長期総合計画の策定に入っていく際には、今後も人口減少の手立てを講じていくことになる。確かに市町村境はあっても人の境は無く、佐藤会長が言われることもその通りと思う。角田市の面積は147km²で、色んな施策を講じやすい面積エリアである。今後も道の駅等々を中心に、同心円状に政策の波及をもたらし、人口減少にならぬよう政策企画課としても進めていきたい。</p>
<p>庄司東根地区 振興協議会会 長</p>	<p>角田市の人口減少等の説明があったが、確かにこのようになると思う。</p> <p>議員は地元の要望等で大変忙しいと思うが、角田市そのものを見て、大局的な気持ちと考えで、役所と一緒にこれを進めていかなければならない。役所で挙げてきた問題点や改善点を真剣に話し合い、今後の市民に対して広くかくだ市議会だより等で広報して皆にお知らせして欲しい。そして、もっと今後の角田市のことを真剣に議員で検討し、役所と煮詰めて欲しいと強く要望する。</p>
<p>柄目議長</p>	<p>この会議には、委員のほかにも傍聴としてほとんどの議員が出ているので、今のご意見を胸に刻み、今後活動していきたいと思う。</p>
<p>高橋枝野地区 振興協議会会 長</p>	<p>この大きな計画については、議会でもしっかりと議論をして、ひとつひとつ政策を実行に移す段取りに入っていると思うが、我々地区振興協議会や一市民にとって、何をどのような形で応援し、どの様な目標をもって各地区に何を願うのか、それが明確に伝わっていない。そういう意味では、皆が疑心暗鬼になっていると思う。こういった立派な計画が出来たなら、各地区に行政当局と議会とでしっかりと議論をして、それぞれの地区にどんな形で何を求めるのか、応援をもらうのか、それをしっかりと立案して、我々が取り組みやすい仕組みづくりを考えてほしい。</p>
<p>阿部藤尾地区 振興協議会会 長</p>	<p>角田市だけでなく、他の市町村でも同じだが、お互いに、人の奪い合いをしているみたいだ。どっちが住んで得するかということに、色んな情報を得て、角田市に決めよう。いや、</p>

馬場議会運営
委員会委員長

山元町にしようとしているんだと思う。

雇用の創出にしても、角田市にしか無いものについては、角田市の特徴であるからそれをすればいいし、他と重なっているのであれば、サービス部門のグレードを上げないとやっていけないと思う。他市町村をよく見て、空き家についても他の市町村にも沢山あるので、角田市の空き家を使ってみようという、ここに住んでみようと思ってもらえるようにしなければならない。

私は藤尾の北根に住んでいるが、これは売れないのではないのかという空き家が1軒あったが、北海道の人がそこを買った。今まで角田市のアパートに住み、復興事業でダンプの運転手をやっていた方である。10トンのダンプが入れるよう道路から乗り入れ口をつけて、山を削り、農地ではないので、砂利を上手に敷き、ダンプを2台、3台停めていた。アパートに住むより、家のすぐにダンプが置けた方が良かった。空き家を使っただけで非常に良い。そのような情報を以外と探している人がいると思うので、そういう情報を積極的に発信したらいいのではないかと思います。

(2) 道の駅をはじめとする賑わいの交流拠点施設整備実施計画における地域の振興について
(説明・質疑)

【賑わいの交流拠点施設整備事業にかかる議会での経緯】

賑わいの交流拠点施設整備事業は、平成28年2月19日に開会した角田市議会第381回定例会に上程された議案、平成28年度角田市一般会計予算において計上された賑わいの交流拠点施設整備事業について審議した結果、平成28年3月16日に原案のとおり可決された。

その経緯は、平成27年2月4日に角田市議会全員協議会で賑わいの交流拠点施設整備基本計画(案)の説明があった。平成27年度当初予算に用地購入費や基本設計業務等の予算を計上していたが、議会への説明不足、市民への理解が深まっていない等と指摘があり、予算を取り下げた。

平成27年4月9日、角田市議会議長から角田市長に対し、第9回議会報告会に係る市政に対する意見要望等について書面にて提出をしており、この要望等のうち、道の駅に関することについては当局に対し課題として次の3点、①施設の管理運営に対する不安等について、②地域産業、農業、商業、工業の活性化策について、③将来に向けて財政計画の見直しについてを提言していたが、市民並びに議会に対して説明不

足のため、市民の不安がぬぐえない状況にあることから、説明機会を設けるよう要望した。

平成27年7月28日、賑わいの交流拠点施設整備基本計画の早期実現に関しての陳情を枝野・藤尾・東根・桜地区振興協議会長より提出され受理した。

平成27年11月16日、角田市議会全員協議会にて賑わいの交流拠点施設整備実施計画（案）の概要について当局より説明を受けた。

平成28年1月15日、角田市農業経営者会議との角田市議会一般会議を開催した。

平成28年2月16日、角田市議会議員協議会にて枝野地区振興協議会から提出された、賑わいの交流拠点施設整備基本計画の早期実現に関しての陳情を含む陳情書を全議員に配付した。

同じく2月16日、角田市商工会との角田市議会一般会議を開催した。

平成28年2月19日、角田市議会第381回定例会（第1日）において、議案第25号 平成28年度角田市一般会計予算において、賑わいの交流拠点施設整備事業を含むものが上程された。

平成28年3月3日、予算審査特別委員会（第2日）において、議案第25号 平成28年度角田市一般会計予算について、当局より趣旨説明を受け、質疑の後、小湊毅議員より通告のあった賑わいの交流拠点施設整備事業について、議員間自由討議を行った。

平成28年3月11日、予算審査特別委員会（第4日）において、平成28年3月7日に開催した予算審査特別委員会産業建設分科会の審査内容を産業建設分科会長が報告し、質疑を行った後、発議者小湊毅委員、賛成者日下七郎委員他2人より、議案第25号 平成28年度角田市一般会計予算に対する修正動議「賑わいの交流拠点施設整備事業の役務費の手数料、委託料及び公有財産購入費の削除及びこの削除から発生する関連項目の予算額等の修正」が提出され、修正動議の説明、質疑、討論、表決を行い、議案第25号 平成28年度角田市一般会計予算について、当局議案に対し、原案のとおり可決すべきものと決した。

平成28年3月16日、角田市議会第381回定例会最終日において、平成28年度 角田市一般会計予算について、予算審査特別委員会委員長報告の後、質疑、討論、表決を行い、原案の通り賛成多数で可決した。

八巻道の駅整備室長

【賑わいの交流拠点施設整備事業にかかる概要説明】

まず、この交流拠点施設の事業を実施するようになったのかをこれまでの経過等も含めて簡単に説明したい。

第5次長期総合計画を平成23年3月に策定した。この第5次長期総合計画の中には、交流人口100万人都市への挑戦という重要プロジェクトがある。この100万人都市への挑戦の具体の施策として、角田中央公園付近に賑わいの交流拠点施設の整備が謳われた。長期総合計画については、議会の議決をいただいたことから、この賑わいの交流拠点施設の事業が始まったことになる。大枠的な絵柄とか事業費については、基本構想を平成24年度に作り、この基本構想に基づき、更に具体的な基本計画を平成27年3月に策定させていただいた。この基本計画の策定に当たっては、まず、市民から様々な意見を出して欲しいことから、農業関係者、商工関係者、あるいはスポーツ団体等の実務者の方々、20人でワークショップを行い、どんな賑わいの交流拠点施設が必要かどうか提案をもらい、基本計画の内容を整理させていただいた。そして、国・県・農業・商工業関係団体の代表者の方々20人で構成している検討委員会を設置し、平成27年3月に施設整備の在り方や管理運営計画等の基本計画をまとめた。この基本計画については、平成27年5月の広報かくだ5月号に概要を掲載、更に5月から6月にかけて各地区振興協議会の総会等の場をお借りし、基本計画の説明をさせていただいた。

先程、馬場委員長からも説明があったが、平成27年7月には4地区からこの早期実現の陳情が出されている。この基本計画に対する市民・議員からの意見、要望等が多数あった。また、整備に要する建設物価がかなり高騰しているということもあり、平成27年度においては、市民・議員からの意見や整備に要する建設物価の高騰を考慮し、基本計画で描いた整備区域2.8haを更に縮小することや、建物の間取りも縮小をさせ、今回、お示しをしている実施計画にまとめた。

市民に対する周知については、今年1月に概要版のチラシを配布し、2月には広報かくだ2月号に実施計画（案）の概要を掲載している。更に2月12日には枝野地区振興協議会から早期実現についての陳情が再度提出されている。

平成28年度の道の駅関連の予算は、総額1億537万円である。施設管理運営を行う第3セクターによる運営会社の設立準備を行っていくための経営計画の策定を行いたいと考えている。経営計画においては、農産物の出荷組織や、商品の品揃え等を含めた運営体制、収支計画の詳細の部分を詰めていくことになる。さらに、整備用地の取得、整備エリアの造

成や建物の基本設計・実施設計を行うとのことで予算の議決をいただいている。

●施設の運営計画

どれくらいのお客様がこの施設を利用するかが、この施設の年間集客数となっている。これは、県道角田山下線の交通量、平成23年10月に調査をした交通量からはじき出したもので、年間75万人のお客様がこの施設を訪れるだろうと見込んでいる。さらに、この施設内の地域振興機能施設、直売所・フードコート等の営業時間帯、開業時間を午前10時から夕方6時半に限定した場合、どれくらいのお客様が来るのかを試算したところ年間57万人となった。さらに、この57万人のお客様のうち買い物をする方は、年間19万5千人と見込んでいる。

農産物・畜産物を活用した商品販売については、農産物直売所では、角田市のブランドとして取り組んでいる、かくだの3つのめ「こめ、まめ、うめ」、あるいは、角田市で生産されている野菜等の園芸作物を主に販売することを考えている。もちろん、角田市内の商店街のお菓子屋さん等からも商品を出してもらおう考えている。

農産加工室は、角田市の農産物をそれぞれ加工室で加工・製造して、直売所で販売をしていきたいと考えている。

農産加工品販売所は、フードコートということで、角田市の素材を使った飲食物を提供する。

●収支予測

5ヵ年の売り上げ見込みについては、農産物直売所1億4,400万円、農産加工室5,100万円、フードコートの直営の部分で5,400万円、テナント、日用品・食料品販売所、屋根付広場・賑わい広場については、場所貸しの施設使用料である。指定管理料は、地域振興機能施設以外、いわゆる道の駅機能施設で、トイレ、情報案内、休憩所、駐車場については公共施設になることから、角田市から指定管理料として1千万円を出すとことになる。

初年度は2億6,400万円、5年後は2億7,400万円の売り上げ高を見込んでいる。

収入は農産物直売所15%、農産加工室40%等の利益率を見込んでいる。場所貸しの使用料、施設管理料は、収入を8,900万円から9,200万円程度と見込み、施設の維持管理は人件費からその他雑費という形で8,900万円から8,800万円くらいの維持管理料が出てくるだろうと見込んでいる。人件費は、シミ

<p>佐藤北郷地区 振興協議会会 長</p> <p>八巻道の駅整 備室長</p>	<p>ュレーション上は、正社員5人、パート17人、計22人の人員が必要になるという見込みで、人件費を推計している。</p> <p>●施設管理運営団体の設立計画 この施設を管理運営する団体は第3セクターとし、角田市、角田市内で活動している企業から出資金を募った形で運営会社を設立したいと考えている。開業にどれくらいの資本金が必要になるのかについては、開業前の初期費用を開業前6ヵ月、開業後3ヵ月の運転資金で、資本金は約5千万円が必要になると見込んでいる。設立時期、平成30年10月頃には会社を設立し、営業は平成31年3月頃に開業予定をしている。</p> <p>●整備区域と動線、施設の配置計画 整備区域は、当初、県道角田山下線から総合体育館に入る市道の東側と西側、両方一体の農地を賑わいの交流拠点施設として計画したが、施設規模の見直しをし、東側の一帯2.1haの農地を利用して、県道角田山下線沿いに駐車場、その北側に道の駅機能施設と地域振興機能施設、西側にはコンビニエンスストアを誘致したい。そして地域振興機能施設の東側に、芋煮やバーベキュー、子ども達も遊べる休憩広場を設けたいと考えている。1ha以上の開発になることから、北側に約2反の調整池を設けなければならない。 事業費は、全体で約11億2,700万円と見込み、国・県から4億1,900万円、地方債5億1千万円、一般財源1億9,800万円の財源を見込んでいる。</p> <p>【各地区振興協議会からの質疑・確認】 概算事業費について、特定財源が国・県の補助が4億円、地方債が5億円、一般財源が2億円とのことだが、結局、補助金は4億円で、角田市の負担というのは7億円という解釈でよろしいのか。</p> <p>総事業費11億2,700万円のうち、国・県から補助が受けられるのは約4億1,948万円で、残り7億円のうち、地方債として5億1千万円を借り入れ、約20年で返済していくことになる。そして、平成26年度から平成30年度までに一般財源の1億9,800万円を支払うことになる。これは、設計費としての業務委託、造成工事に係る費用、建物の建設費等である。 地方債は公共事業債と一般単独債と2つに分かれている。 公共事業債は、道の駅機能を整備する際、地域振興施設の中に設置されるトイレ、情報案内所、駐車場、広場等の整備</p>
--	---

<p>高橋枝野地区 振興協議会会 長</p>	<p>について借り入れるものである。</p> <p>一般単独債は、農産物直売所等の地域振興機能施設の建物が該当し、これは、若干、借り入れ率が下がる。</p> <p>この賑わいの交流拠点作りは、角田山元トンネルが開通する前に、枝野地区から、賑わいの交流拠点道の駅構想なるものをお願いした。体育館、陸上競技場利用者から近くでお昼等の食べる所が無いと苦情が寄せられた経緯があった。角田山元トンネル完成までに、コンパクトでもいいからなんとかできないかをお願いした。</p> <p>その後、角田山元トンネルが開通し、東日本大震災であるような惨状になってしまい、どうなるのかと思ったときに、この話が再浮上してきた。大型な施設でなくとも、とりあえず、角田版としてこの仙南地域の一角から支援をもらい、コンパクトで魅力ある角田版の交流拠点作りをお願いしたいということで、私ども枝野・藤尾・東根・桜地区も含めて、陳情した経緯が過去にあり、2月にも枝野地区からなんとか進めていただきたいとお願いした。</p> <p>残念なことに、道の駅入り口の西の地域の農地の取得を断念されたと聞いたが、結局、将来のためのことを考えたら、これからでも遅くはないので、用地を取得していただき、広く駐車場としてでも活用するというのが一つの方策かと思う。これからの検討課題として是非取り組んでいただきたい。</p>
<p>加藤角田地区 振興協議会委 員</p>	<p>皆が一番不安に思っているのは、設備計画が終わって、単年度の営業収支が見込み通りに黒字基調でいくのかということに尽きると思う。単年度の赤字、あるいは累積赤字が複数年度にわたって出た場合、無制限に指定管理料を市が負担することになるのか。</p> <p>ある議員から賑わいの交流拠点施設設置実施計画書をお借りし、10回くらい読んだ。そして、読んだ後にコメントをさせていただいた。去年5月の広報かくだの市長日誌で大友市長は、全国の道の駅は平成25年度1,040で、全国の売り上げは2,100億円だと書いていた。そうすると、平均で1つの道の駅の売り上げは約2億円となる。今日出された計画も、以前に出された計画も、指定管理料の1千万円を入れて2億6,400万円の売上高というのは、全国平均の130%になる。指定管理料を引いても125%になる。これで採算が十分に取れるかという不安がある。</p> <p>私は銀行の支店長経験者だが、営業収支の考え方をあえて申し上げれば、人数掛ける単価である。人数の出し方は、先</p>

程、説明があったようにその場所の交通量や活用率である。また、収益率を掛けるのだが、その計算に基づいて収入が出ている。法政大学の研究チームが調査したアンケートが、インターネットに掲載されているが、利用率が全国で約36万人となっているのに対し角田市は19万5千人で、約半分しか買い物に来るお客さんはいないということになる。全国平均の売上げが約2億円なので、その半分強というと、全国平均の数字から推計すれば1億円強しか想定されないということになる。

もう一つの考え方は、この計画書に基づいて一つずつチェックしていく、積み上げていくという作業が必要である。後でチェックして欲しいのだが、収支計画書に、農産加工室5,100万円とあるが、角田市の農産物は新鮮だから120%、他のところより売上げが見込めると書いてある。しかし、スーパーでもどこでも農産物は新鮮である。角田市の道の駅だけ特に新鮮だということではないことから、そこで700万円近い金額が売上げに加算されていることになる。その700万円を最後の営業利益11万2千円や88万2千円から引くと、更に赤字額が広がり、指定管理料がプラスされるということになる。

また、計画そのものが大雑把だと思われる点は、ほとんどが平均値や中間値をとっているところである。中間値というのは100あれば50か51となるが、その数字を拾っている。平均というのはトータルの加重平均であるが、枝野地区の場合に、中間値や平均値をとっていいのかということなる。少なくとも東北の利用者は、法政大学の調査で約半分の54%であることから、平均値の半分である可能性もある。まず、そういったところを洗い直していただきたい。

収支予測については、農産加工品販売所（直営）の売上高は5,400万円、収益が3,240万円とあり、利用率を28%で計算をしている。利用率28%は、地方の高速道路のパーキングエリアの数字を使っており、その数字を使っていいのかという問題がある。私は、その28%ではなく、本当は半分とか、それ以下の数字を入れたいところだが、作成してくれた方へ敬意を表して60%で計算すると、2,200万円の差額が出てくる。

先程言った新鮮だからって20%の嵩上げ部分と、この高速道路の利用率の28%の嵩上げ部分だけで3千万円の嵩上げになっている。どう見ても、3千万円から5千万円くらいの指定管理料は必要になると私がこの計画書を見た感想である。

もし、そうでないという根拠があるのであれば、根拠を示して欲しい。

<p>八巻道の駅整備室長</p>	<p>また、1人当たり1,000円の買い物をすると計算をしているが、600円の計算や、500円の計算をしているのか。人は千差万別である。また、限界利益率が99.9%というのは、考えようによっては、ほとんど儲けないということである。この辺の数字をもう少し明確に示さなければ、金融に対して全く安心できない。</p> <p>もし、赤字が続くのであれば、我々角田市で全部負担するのかということをお尋ねしたい。</p> <p>集客数の考え方については、県道角田山下線の一本の道路の車両交通量からどれくらいのお客さんが営業時間帯にこの施設に立ち寄るのか、どれくらい買い物をしてくれるのかを試算し、19万5千人を基本とした。この19万5千人の方がどれくらい買い物をされるかは、他の道の駅を参考にした場合、一人当たりの購買の金額が800円や1,500円など幅があるのだが、これらを参考にし、1,000円という金額が妥当であるとのことで試算した。</p> <p>フードコートについては、どれくらいのお客さんがここに来て、食べ物を買って、その場で食べるなり、外に持っていきなりということ、通常の高速度道路のレストランの利用率よりさらに高い立ち寄り率が考えられるが、あえて高速度道路のレストランの立ち寄り率と同じ28%を使い、一人当たり300円くらいの軽食をとって買い物をするとして算定した。</p> <p>やはり、収入を過大に見積もりたくはないのは確かで、施設の維持管理についても、必要最小限の色々な機械設備等で、どれくらい高熱水費がかかるのかを細かく算出し、人件費においては22人分の費用を必要とし、あくまでも赤字にならない程度の施設管理や収支のシミュレーションをした。赤字になれば、出資した角田市を含めた関係出資団体が当然それを賄っていくという考え方を基本にしている。できるだけ、赤字にならないよう、更に平成28年度については、会社としての経営計画を実際に出資していただける団体や金融機関にも入っていただき、この経営計画を煮詰めていきたいと考えている。</p>
<p>加藤角田地区振興協議会委員</p>	<p>もし、近隣の市町村で運営する道の駅の決算書を角田市がお持ちだったら、私どもが閲覧することができるのか。</p>
<p>八巻道の駅整備室長</p>	<p>近隣市町村の第3セクターで運営しているところは、宮城県で出しているホームページから収支を見ることができる。</p>

<p>加藤角田地区 振興協議会委員</p>	<p>しかし、村田町の道の駅であれば、村田町の道の駅プラスその地域振興施設もあり、色んな部分を管理しているので、それらも一緒に収支決算の公表をしている。</p> <p>単独で決算書を作るところはありませんということか。</p>
<p>八巻道の駅整備室長</p>	<p>単独で行っている道の駅もあれば、それぞれの自治体の施設と一緒に会社が経営しているところもある。それは、それぞれの道の駅で異なる。</p>
<p>加藤角田地区 振興協議会委員</p>	<p>道の駅の営業収支が分かるものがあれば、他の事業との合算でも構わないので、そういったものをお持ちになっているのか。持っていたら見せてもらえるのか。</p>
<p>八巻道の駅整備室長</p>	<p>公表できる部分については、宮城県で公表しているのでお求めください。角田市から他の会社の収支の情報公開をする訳にはいきません。</p>
<p>加藤桜地区振興協議会副会長</p>	<p>賑わいのまち、活力のあるまちを市民誰もが望んでいる。議会が終わった事後処理のような形で、今日、私は出席している。農業関係者、商業関係者と角田市議会一般会議を開いたと思うが、2月定例会でその方々との意見、要望をどのように反映させたのかお聞きしたい。</p> <p>それから、今回、我々が招集された訳だが、議会で可決されたことを我々が後で言ってもどうなのかという感じを持っているが、説明を願う。</p>
<p>柄目議長</p>	<p>以前に、農業関係者や商業関係者の方々と角田市議会一般会議を行ったが、結果だけでなく、各議員には後援会もあり、区の役員もいる。そんな方々から頂いた声が反映されて、今回の議案の審議になったと思う。当然、先程も言ったように、議決はされたが反対意見もあった。今回の議決は取り掛かりの第一歩を踏み出したばかりで、2段、3段と進んでいくため、市民や議会のアイディアを更に加えていかなくてはならないという意味での角田市議会一般会議であるので、ご了承願いたい。</p>

<p>佐藤西根地区 振興協議会会 長</p>	<p>【意見交換】</p> <p>道の駅の予算が議会で通ったからには、オール角田で取り組んでいかななくてはならないと思っている。</p> <p>収支予測について、なんとか黒字にしたいだろうが、これが右肩上がりです。5年後には初年度の15倍強を見込んでいる。初年度は21万2千円の営業利益が338万2千円になる。今は民間企業でもこのようには数字は上がらないが、その辺の裏付けを教えてください。</p>
<p>八巻道の駅整 備室長</p>	<p>農産物直売所の売り上げについては、初年度1億4,400万円から1億5千万円と売り上げは若干の増加を見込んでいる。</p> <p>農産加工室については、5,100万円から5,500万円ということで、これも若干の増加を見込んでいる。フードコートは、初年度から5年後まで同じである。その利益率を農産物直売所を15%、農産加工室を40%、フードコートの直営部分を60%の利益率を見込んでいる。</p> <p>フードコートの農産加工品販売所はテナントとして場所貸しをし、テナント料を初年度から5年後まで205万円。日用品・食料品販売所は、コンビニエンスストアとして土地をお貸しし、建物はコンビニ側で建てて運営していくという場所貸しの施設使用料。また、屋根付広場・賑わい広場でも、イベント関係で、場所をお貸しする使用料を見込んでいる。</p> <p>そして、一般管理費では、宣伝費をオープン年の初年度は200万円、2年目以降は150万円と見込んでいる。</p> <p>その他については、同額で維持管理費を見ている。</p> <p>営業利益を約300万円と見込んでいる収支計画となっている。</p>
<p>佐藤西根地区 振興協議会会 長</p>	<p>計画通りに進むようお願いしたい。特産品のこめ・まめ・うめは分かるが、冬の野菜は角田市ではなかなか無い。どう考えているのか。</p> <p>また、今日、河北新報を見た方はご存知だと思うが、今、フードセンターが、あちこちにできており、気仙沼で昨日、エコープと締結したと書いてあった。生活困窮者はどこにでも多くなってきている。道の駅でも、毎日、食品の売れ残りが出てくるだろうから、角田市もフードセンターを考えてみる時期ではないか。これは道の駅の担当者では無いだろうが、その辺も含めて議員の考えもお聞かせ願いたい。</p>

<p>八巻道の駅整備室長</p>	<p>冬場の農産物の供給をどうしていくかというのは、やはり角田市の弱点であることから、園芸作物のハウス栽培を推し進めたいと考えている。また、通年、全ての品を揃えるまでには達していないので、農家やJAと話し合いをしながら、生産振興対策を図っていかなければならないと考えている。</p>
<p>砂金枝野地区振興協議会副会長</p>	<p>2月定例会で道の駅の予算が可決されたからには、オール角田で取り組まなくてはならないとの意見があったが、私もそのように感じた。前進するのみである。</p> <p>しかし、問題点もあるので聞いていただきたい。一つは先程話が出たが、道の駅入り口の西の地域の三角の土地は、当初計画では用地購入するはずだったが、実施計画では無くなっている。物価の高騰により購入しない理由は分かったが、あそこの土地を残すことによって、土地のバイヤーが目をつけることが懸念される。他県でのことだが、土地が高騰したり、もっとひどいときには、不法投棄等の残骸のゴミ捨て場になってしまう。そういうことの無いようにお願いしたい。</p> <p>また、東側に新設道路ができると読み取れたが、今後、その東側の田畑は将来、例えば米山町のチューリップなどのような憩いの場・癒しの場として将来構想を持ってもいいのではないか。</p> <p>それから、調整池があるが、単なる調整池で過ごすのではなく、例えば錦鯉を飼うとか、橋を掛けるとか、噴水でライトアップして、ルミナリエまでいかなくても、我々が誘い込まれるような、行ってみたくなるような空間作りができないものか。</p> <p>また、コンビニエンスストアについてだが、一昨日、岩沼市のコンビニエンスストアに入ってみたら、コンビニエンスストアの中で色んな手作りのものを出していた。コンビニエンスストアと言っても様々な種の店が何万店とある訳だが、そういうところと何らかの形で手を組めないものか。</p> <p>農産加工室については、農産加工品を作ったただ直売するだけではなく、大手と組めないものか。こめ・まめ・うめを農業団体、商業団体で商品開発をしていくのだろうが、場合によっては、他の市町や県内からの商品を取り揃えることも必要になってくるだろうし、工業関係で言えば、アイリスオーヤマ等からの支援も受ける必要があるだろう。</p> <p>地理的に考えても、非常にこの地区は海にも近いし、山にも近い。山元町の花産物や昆布、丸森町のタケノコやキノコやコログキなど、色々考えられる。角田市だけで考えるのではなく、広域的に考えるべきだ。そして、住民が、子どもが、</p>

谷津産業建設
常任委員長

若者が、大人がワクワクして集まってくるような場所であって欲しい。

さらに、駐車場が2千台が限度のように聞こえたが、体育館や競技場などのイベントを更に活発化させてもいいと思う。賑わいを見せるため、大いに角田市をアピールする必要がある。一週間ほど前に、秋田県大館市から来た70歳近い夫婦が私の家に泊まったが、帰りに角田市内を案内した。その夫婦を台山公園に連れて行き、スペースタワーに上ったら、美しい町ですね、町が整っていますね、こういう町でありたいですねと話された。ああそうか、もっともっと私たちは角田市に誇りと自信を持ち、先見性を持って前進しなくてはいけない。住みたくなるような、Uターンして帰ってくる若者が出るような角田市を作り上げたいと、その時感じた。

最後に行き着くところは金かなと思うが、少し将来を見据えて、先見性を持って、計画的にやるしかないと考えるところが多々ある。前途を悲観せざるを得ない部分もあるが、私は応援していきたい。

商工会や農業団体と角田市議会一般会議を行い、それをどのように繁栄したんだということについて、まさしくそれは重要なことである。予算審査特別委員会産業建設分科会を行った際、当局にその角田市議会一般会議の議事録をお示しした。その議事録に対し、現段階のまち・ひと・しごと創生総合戦略においてどのように考えているのか。また、その中に来年度の当初予算に具体的に入ったものはなんだというような審査をさせていただいた。その答弁を踏まえて、または予算も含めて、これを皆さんにフィードバックしなくてはいいだろうと考えている。議会で一方的に聞いた後に、皆さんにお知らせしないままになるのは、議会の自己満足でしかない。今日の会議も同じだと思う。まとめた場合は報告書を皆さんにお配りし、色んな形でオープンになると思っている。そして議会がどう動いたのかということをもう一度、皆さんと話し合う必要があると私は考えている。

そして、今回、修正動議も提出されながら、議会としては13対4で可決をした。これに対して様々なご意見があるかと思うが、このまま放置していくと、人口が1万4千人になってしまう。そうすると角田市の経済も含めて、または労働人口も含めて、町としての存在が危ぶまれることになる。その中でどのようにやったら前に進めるのだろうかという戦略の中に大友市長として道の駅を載せたということになる。私は賛成した側の一人ですが、条件をつけている。この数字は、

	<p>はっきり言って認めていない。なぜならば、これは国の補助を貰うためにやったものだろうと捉えている。今回、平成28年度当初予算、賑わいの交流拠点施設分として1億500万円ほど予算が計上されているが、それは用地購入、造成、そして設立会社の検討に使われる。それを当局に確認したが、この企画を作ったコンサルタントは、道の駅の専門家ではないので、私は信じていない。そういう意味では、これから改めて、この事業計画を作成していく。具体的に議会がゴーサインを出したので、皆さんが納得するような収支の数字を出していかなければならない。事業計画にあぐらをかく社長であれば、やる必要はない。目標に向かって、歩む社長をどう選んでいくか。そして、それに向かって歩むような事業計画をどう作るかということに、これからの1年が勝負だろうと私は思っている。今日、皆さんから頂いた貴重なご意見は、引き続き産業建設常任委員会で早急に精査させていただきたいと思っている。</p>
<p>武智小田地区 振興協議会会 長</p>	<p>野菜等の生産者について、あるスーパーが商品を出してくれないかと言っても生産者がいない、能力がないという声を良く聞く。これだけの金額の農産品。果たして1年を通して魅力あるものを生産できるのかが、私は非常に心配をしている。</p> <p>それから、先程、谷津委員長から、この数字をあまり重要視していないとのお話があったが、それはいかがなものか。何を根拠に議会で承認をしているのか。</p> <p>また、経営者が重要だ。ただ、委託をして指定管理料を支払うやり方もあるが、そんな生易しい事業では無い。カリスマ性のある、実績のあるトップがいてこそ、私はなんとか、格好がつく数字になると思う。ただ、委託しただけでは、絶対、上手くいかない。トップをいかにして人選するかというところに事業の成功がかかっていると考える。</p>
<p>谷津産業建設 常任委員長</p>	<p>先程言った、数字は全く当てにしていなくて捉えられたのは、私の説明不足だったが、これを作ったのはコンサルタントと当局である。しかし、このコンサルタントは、過去に道の駅の成功事例がない。今年度の予算のゴーサインをしたので、もっと皆さんに説明できるような生の数字を表していくべきであろうという意味で申し上げた。</p> <p>また、例えば、コンビニエンスストアを先行して設置してもいいと思う。そこに、農産物を作っている方が、コンビニエンスストア施設付近の市の駐車場にトラック市でもいいか</p>

<p>相澤議会運営 委員会委員</p>	<p>ら、1年、2年やってみて、どの程度の規模がいいのか。または、農家の方もどうやったらいいのかというものも見えてくるだろうと考えている。</p> <p>先程話が出た、三角地の西ゾーンについては、当然民間の地上げ屋等がいたずらする可能性があることは議会としても考えている。先日行われた会派代表者会議で、道の駅とは別として、とりあえずあの三角地を放置することは大変危険であるから購入しなさいという方向で進んでいる。ベガルタレディースのゲームで、最大で3,200人が来場した時、駐車場スペースが全く足らなかった。そして、多目的グラウンドに白線を引いて駐車場とするが、雨が降ると入れない。そうなるにあの一体が道路まで駐車場になってしまうことも想定できるので、当面は駐車場等としてでも買うべきだろうという議員同士の話し合いになっている。</p> <p>角田市の現状は、商業にしても農業にしても、本当に疲弊している状況を見ると、どこかに市民が活気を持てるような場所を見つけていかなければならない。</p> <p>農業経営者や商業経営者の方々の意見を聞くと、賑わいの交流拠点施設については意見が拮抗している。本当にこれが上手くいくのか、角田の実をとるような赤字施設となり、大変になってしまうのではないかと心配している方もいる。</p> <p>活性化という意味で、私達会派は、道の駅はどうしても必要であると考えている。角田中央公園には25万人から30万人の人達が訪れてくれているが、弁当等、なにか少し買いたくても何の場所も無いことから、来ていただいた方に喜んでいただける施設が必要である。そして、そこに角田の皆さんで経営・運営をしていけるような体制を作り、角田の活性化に繋げ、市民の気持ちをそこに乗せられるようなものを作っていかななくてはならない考え、私たちは3つの意見を市長に提出している。経営陣を早く見つけてその方々の意見をその中に盛り込むことや、机上だけの計画ではなく、農業や商業のノウハウを持っている方々の力をその中に早く借りることなどである。1億500万円の予算が計上されたが、計画を進めるにあたり、私たちの会派では厳しくチェックしていきたい。皆さんの英知を結集し、市民の皆さんが心配しているようなことにならないようにやっていきたい。</p>
<p>目黒小田地区 振興協議会副 会長</p>	<p>道の駅の予算に対し、賛成13、反対4で、4人の方の議員が反対している訳だが、反対した4人は、決まったことに対して今後、協力していくのか。それとも足を引っ張るのか。</p>

<p>柄目議長</p>	<p>また、色んな形で地場産とか農産物とかを販売すると言うが、3年後を見据えた地場産作り等、その辺の動きはどう行っていくのか。</p> <p>議決したことには皆従うのが民主政治だと思う。4人の反対の方は、今度は議決されたことに従って良いものにしていくための力を貸していただけるものと思っている。</p>
<p>八巻道の駅整備室長</p>	<p>実施計画書をまとめるに当たり、200人の生産者の方にアンケート調査を行った。積極的に出荷したい、あるいは状況を見ながらという方が約100人おり、何らかの形で出荷の意向の形を示している。しかし、それぞれの農業者の方がどういった野菜をどれくらい作って、その中から道の駅にどれくらい出荷していただけるのかは、これからの話になる。平成28年度については、その生産者に、JAを通じ、道の駅としても生産者の方と相談しながら、3年後に向けた取り組みを検討していきたい。</p>
<p>佐藤西根地区振興協議会会長</p>	<p>生産者200人のうちだいたい100人位だいたいという話だが、年齢層は何歳なのか。</p>
<p>八巻道の駅整備室長</p>	<p>年齢層は幅があり、中心は60代くらいで、地区によっても大分ばらつきがある。一番、高齢の方が取り組んでいる地区は、東根地区という見方はしている。ただ、若い方もいるので、新規就農という形も含めて、これから検討していく。</p>
<p>佐藤西根地区振興協議会会長</p>	<p>60代が中心だったら、私も安心であるが、先日、仙北の道の駅みなみかたのことが新聞に載っていた。あそこは生産者が高齢化し、なかなか今は生産できないらしい。生産者だけに頼れない。ましてや若い人たちは田んぼをやっているので、野菜づくりはしない。定年退職した方を中心に、ハードからソフト面で取り組みをしているということが書いてあった。そうならないようお願いしたい。60代でも若くならず、70代、80代と歳を重ねる。10年先、20年先を考えてやっていかないと、墓穴を掘るような形になる。</p>
<p>湯村横倉振興協議会会長</p>	<p>今日の角田市議会一般会議の案内をいただいたとき、今日のこの会合というのは、次第の2番の(1)、(2)があったからこういう会議を開いたということなのか。私は振興協議会の横倉地区の代表になってから1年目で、今まで参加した方が</p>

<p>柄目議長</p>	<p>分からなかった。こういう会合は、例えば振興協議会という名目で会議があったのか。また、これからも継続していくのか。</p> <p>今までは、そんなに頻繁にはなかった。角田市議会一般会議と称して会議を開いたのは、ついここ数ヵ月の話で、以前は、振興協議会と直接、お話をする機会は公的に持っていなかった。今後の話になるが、双方から求めがあれば、いつでも会合は開くという姿勢で取り組んでいるので、今後も続けていく。</p>
<p>阿部藤尾地区 振興協議会会 長</p>	<p>インターネットで取れるものだが、農林水産省の統計で出した平成28年2月9日付けのもので、その中の特徴的なものの一つに有機野菜で通称オーガニック栽培とある。これに対する全国での意見なのだが、オーガニック農産物の購入の意向という項目で、「購入している」が18%、「購入したいと思う」が64.6%。値段的にどのくらいまで金出して買うのかという項目が、「無回答」が3.7%、「同じ値段なら買う」は誰でも買うのだが、「一割高くても買う」、「2割から3割高まで購入する」、「4割から5割までなら購入したい」という人がある。安心・安全のためにはお金を使う方が全国にはいるんだなと思った。これが角田市も同じかということ、そうとは思うか思わないかは個人の意見だが、安全だから買うというのが一番多い。このように有機野菜とか特殊な野菜等を欲しがっている人は中にはいるので、生産者は何かしら手段を講じなければならないと感じ、意見を述べさせていただいた。</p>
<p>谷津産業建設 常任委員長</p>	<p>農業経営者会議で、農業経営者は現在、65歳くらいの農家が6割であり、それが10年後には75歳になるとの問題提起があった。そういうことも含めて、産業建設常任委員会では、5月中旬以降に道の駅を4ヵ所、行政視察をする予定である。そこは、7億円とか6億円とか売り上げがある、全国のモデル道の駅や重点道の駅である。盗めるものは盗んできたいと思っている。今後、進める委員会の中でも、政策提言を行っていきたい。</p>
<p>今野北郷地区 振興協議会副 会長</p>	<p>人口減少打開の一つとして道の駅が出たということだが、道の駅だけで人口減少をストップできるとは限らないと思うので、今までどおりいらっしゃいプラン、子育て支援等に一層力を注いでいただき、この角田市に生まれ育って良かったんだと、ここで生活していて良かったんだと、本当に自分</p>

大井議会事務局長	<p>が心からこの角田市を誇れるような、そういう町づくりに力を入れていっていただきたい。</p> <p>先程の横倉地区振興協議会の湯村会長から出たお話の中で、今までの角田市議会一般会議の開催について、震災直後、平成23年8月に肥育牛の出荷停止の緊急要望についてということで、農業関係団体の方と角田市議会基本条例制定以降、はじめて行われた。本日で4回目の開催となる。更にまた、先程議長からも話があったとおり、今回に限らず、今後角田市議会一般会議をある程度の期間をおきながら、定期的で開催できれば一番良いと考えている。</p> <p>※ 小島 正 副議長が挨拶を行い閉会。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
----------	---

角 田 市 議 会 一 般 会 議

日 時 平成 2 8 年 3 月 2 9 日 (火)
午後 2 時 3 0 分
場 所 角田市役所 3 0 1 会議室

次 第

1 開 会 挨拶

議長 柄目孝治

2 議題の趣旨説明等

- (1) 角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略における地域振興について(説明・質疑)

説明者：政策企画課長 泉 隆司

質疑者：7人

- (2) 道の駅をはじめとする賑わいの交流拠点施設整備実施計画における地域振興について(説明・質疑)

説明者：議会運営委員会委員長 馬場道晴、道の駅整備室長 八巻裕一

質疑者：4人

3 意見交換

- (1) 角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略における地域振興について

- (2) 道の駅をはじめとする賑わいの交流拠点施設整備実施計画における地域振興について

4 閉 会 挨拶

副議長 小島 正

角田市議会一般会議 出席者名簿
(角田市議会・角田市)

角田市議会

No.	氏 名	役 職 名
1	柄 目 孝 治 (つかのめ こうじ)	議 長
2	小 島 正 (おじま ただし)	副議長
3	馬 場 道 晴 (ばば みちはる)	議会運営委員会 委員長 ※ 座長
4	八 島 利 美 (やしま としみ)	議会運営委員会 副委員長 ※ 記録者
5	小 湊 毅 (こみなと たけし)	議会運営委員会 委員 総務財政常任委員会 委員長
6	八 島 定 雄 (やしま さだお)	議会運営委員会 委員
7	谷 津 睦 夫 (やつ むつお)	議会運営委員会 委員 産業建設常任委員会 委員長
8	相 澤 邦 戸 (あいざわ くにこ)	議会運営委員会 委員 教育厚生常任委員会 委員長
9	堀 田 孝 一 (ほった こういち)	総務財政常任委員会 副委員長

角田市

No.	氏 名	役 職 名
1	齋 藤 誠 一 (さいとう せいいち)	産業建設部長 (兼) 農政課長
2	佐 藤 文 美 (さとう ふみよし)	産業建設部理事 (道の駅整備担当)
3	泉 隆 司 (いずみ たかし)	政策企画課長
4	八 巻 裕 一 (やまき ゆういち)	道の駅整備室 室長
5	小 湊 洋 司 (こみなと ひろし)	道の駅整備室 参事 (兼) 室長補佐

角田市議会事務局

No.	氏 名	役 職 名
1	大 井 幸 雄 (おおい さちお)	議会事務局 理事 (兼) 事務局長
2	山 本 浩 司 (やまもと こうじ)	議会事務局 参事 (兼) 事務局次長
3	目 黒 知 子 (めぐろ ともこ)	議会事務局 議事係長

角田市議会一般会議 出席者名簿
(各地区振興協議会)

	団 体 名	役職名	ふり 氏 がな 名
1	角田地区振興協議会	会長	たか はし てる あき 高 橋 輝 昭
2	角田地区振興協議会	委員	か とう くに お 加 藤 邦 男
3	横倉地区振興協議会	会長	ゆの むら よし ろう 湯 村 喜 郎
4	横倉地区振興協議会	副会長	にし くら よし お 西 倉 義 雄
5	小田地区振興協議会	会長	たけ ち てる みち 武 智 照 道
6	小田地区振興協議会	副会長	め ぐろ たかし 目 黒 孝
7	枝野地区振興協議会	会長	たか はし たつ ゆき 高 橋 達 征
8	枝野地区振興協議会	副会長	いさ ご じん いち 砂 金 甚 一
9	藤尾地区振興協議会	会長	あ べ かず お 阿 部 和 郎
10	藤尾地区振興協議会	副会長	もり まさ ゆき 森 正 幸
11	東根地区振興協議会	会長	しょう じ ひさ お 庄 司 久 男
12	東根地区振興協議会	副会長	わた なべ ひろし 渡 邊 弘
13	桜地区振興協議会	副会長	か とう かつ せい 加 藤 勝 衛
14	桜地区振興協議会	会計	はん ざわ とおる 半 澤 徹
15	北郷地区振興協議会	会長	さ とう よ いち 佐 藤 与 一
16	北郷地区振興協議会	副会長	こん の りょう いち 今 野 良 一
17	西根地区振興協議会	会長	さ とう ひろし 佐 藤 弘
18	西根地区振興協議会	副会長	たか はし せい いち 高 橋 静 一